



2021年12月期 決算説明資料

東証一部 2597

株式会社ユニカフェ

2021年1月1日～2021年12月31日



決算の概況

～連結～

決算概況：連結PL

売上高 152億18百万円、営業利益 2億94百万円 (百万円)

	2020年12月期 (2020年1月1日～12月31日)		2021年12月期 (2021年1月1日～12月31日)	
	(連結)	対売上高比	(連結)	対売上高比
売上高	14,609	100.0%	15,218	100.0%
営業利益又は 営業損失(△)	△315	△2.2%	13	0.1%
経常利益又は 経常損失(△)	△268	△1.8%	23	0.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	△2,085	△14.3%	294	1.9%
E B I T D A	128	0.9%	299	2.0%
R O E	△29.9%		4.9%	

連結PLの内訳

(百万円)

	2021年12月期 (2021年1月1日~12月31日)						
	(当社)	対売上高比	(アート コーヒー)	対売上高比	(連結調整)	(連結)	対売上高比
売上高	9,986	100.0%	5,286	100.0%	△54	15,218	100.0%
営業利益又は営業損失 (△)	37	0.4%	△75	△1.4%	51	13	0.1%
経常利益又は経常損失 (△)	96	1.0%	△70	△1.3%	△3	23	0.2%
当期純利益又は当期純 損失(△)及び 親会社株主に帰属する 当期純利益	178	1.9%	130	2.5%	△14	294	1.9%

自己資本比率は前連結会計年度末比0.9%p上昇し41.5%
(百万円)

		2020年12月期 (連結)	2021年12月期 (連結)	増減額
資産の部	流動資産	8,205	8,832	626
	固定資産	6,341	5,872	△469
資産合計		14,546	14,704	157
負債の部	流動負債	4,136	5,025	889
	固定負債	4,509	3,580	△929
	負債合計	8,646	8,605	△40
純資産の部	株主資本	5,909	6,108	198
	評価・換算差額等合計	△8	△9	△0
	純資産合計	5,900	6,098	198
負債純資産合計		14,546	14,704	157
自己資本比率		40.6%	41.5%	0.9%p



決算概況：連結CF

(百万円)

	2020年12月期 (1月1日~12月31日) (連結)	2021年12月期 (1月1日~12月31日) (連結)
営業活動による キャッシュ・フロー	371	466
投資活動による キャッシュ・フロー	△111	595
財務活動による キャッシュ・フロー	1,040	△491
現金及び現金同等物の 増減額	1,300	570
現金及び現金同等物の 期末残高	4,227	4,798

分野別 サマリー(連結)

2020年12月期 連結 (2020年1月1日～12月31日)

2021年12月期 連結 (2021年1月1日～12月31日)

売上高

家庭用

364百万円

工業用

5,015百万円

売上高
14,609百万円

業務用

9,230百万円

家庭用

324百万円

工業用

5,359百万円

売上高
15,218百万円

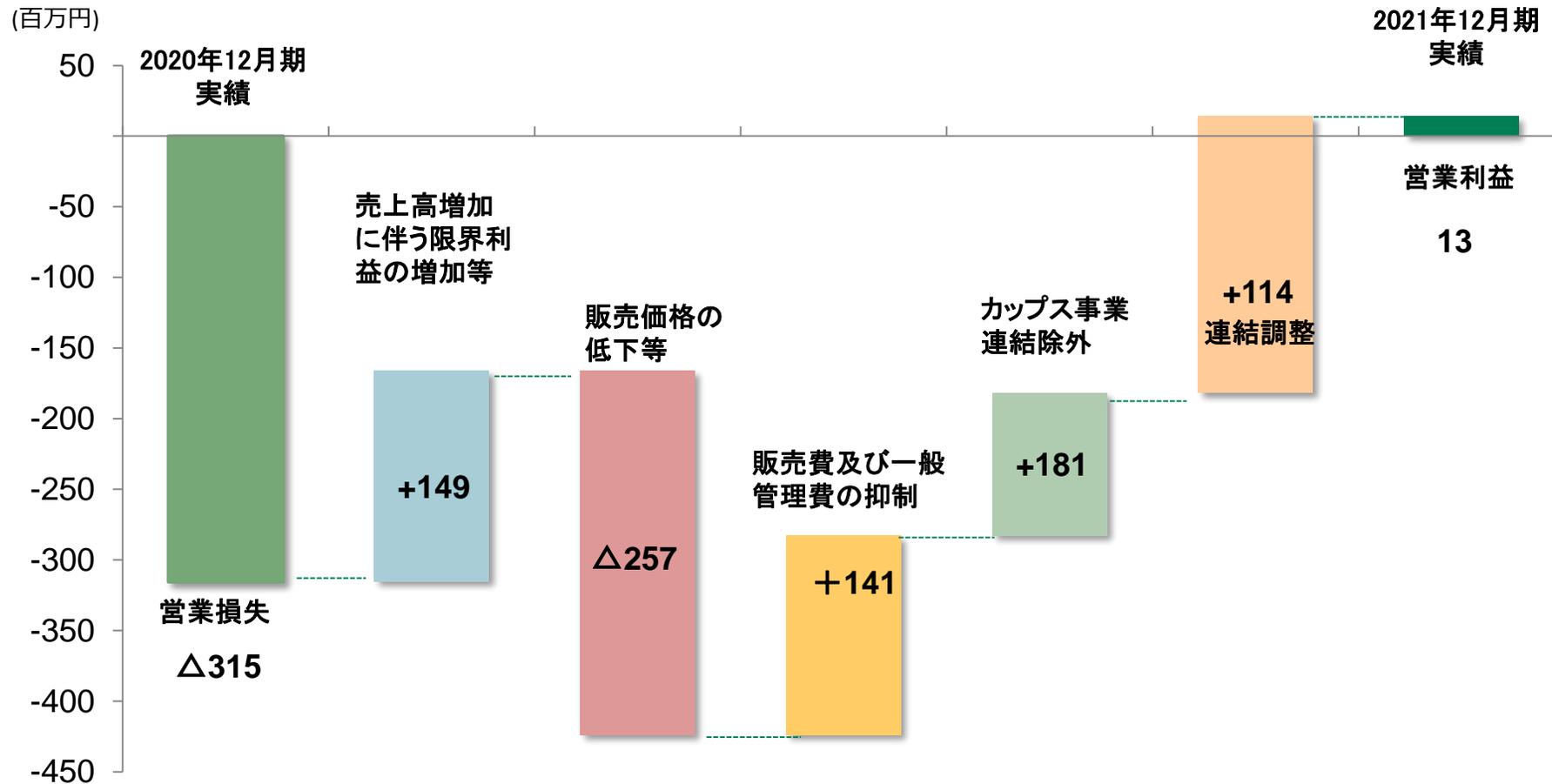
業務用

9,535百万円

前年の大幅な売上高の減少からは回復基調でとなった。新しい生活様式を踏まえた営業活動を行ったことで、前年を上回った。

営業利益の増減分析(連結)

当連結累計期間の営業利益13百万円



2021年12月期 トピックス

◆アートコーヒー山梨工場の譲渡完了による特別利益及び特別損失計上

2021年6月15日付けで公表した株式会社アートコーヒーが所有する山梨工場の譲渡が完了
当連結会計年度において、特別利益と特別損失を計上

【特別利益】

固定資産売却益 386百万円

【特別損失】

固定資産売却損 58百万円

固定資産除却損 179百万円

◆法人税等調整額（益）の計上

当第4四半期連結会計期間において、現時点での将来の課税所得を見積り、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、回収が見込まれる部分について、法人税等調整額（益）を126百万円計上

当連結会計年度において、累計で法人税等調整額（益）263百万円を計上



決算の概況 ～個別～



決算概況：当社個別～ユニカフェ～

売上高9,986百万円、営業利益37百万円

(百万円)

	2020年12月期 (2020年1月1日～12月31日)		2021年12月期 (2021年1月1日～12月31日)	
	(個別)	対売上高比	(個別)	対売上高比
売上高	8,609	100.0%	9,986	100.0%
営業利益	5	0.1%	37	0.4%
経常利益	39	0.5%	96	1.0%
当期純利益又は 当期純損失(△)	△2,062	△24.0%	178	1.9%

新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた前年の業績からは回復基調であり、前年を上回る結果となる。



(チャネル別)個別PL～ユニカフェ～

(百万円)

	2021年12月期 (2021年1月1日～12月31日)					
	工業用	(対売上高比)	業務用	(対売上高比)	家庭用	(対売上高比)
売上高	4,604	100.0%	5,279	100.0%	114	100.0%
売上総利益	382	8.3%	864	16.4%	27	24.2%
営業利益又は 営業損失 (△)	267	5.8%	561	10.6%	19	17.2%

(製造部門収支及び管理部門における間接費用の配賦前)

巣ごもり消費によって個人消費が回復傾向にある中、業務用事業、家庭用事業において新しい生活様式を踏まえた営業提案に注力し、前年を上回る結果となる。

決算概況：アートコーヒー個別

売上高5,286百万円、営業損失△75百万円

(百万円)

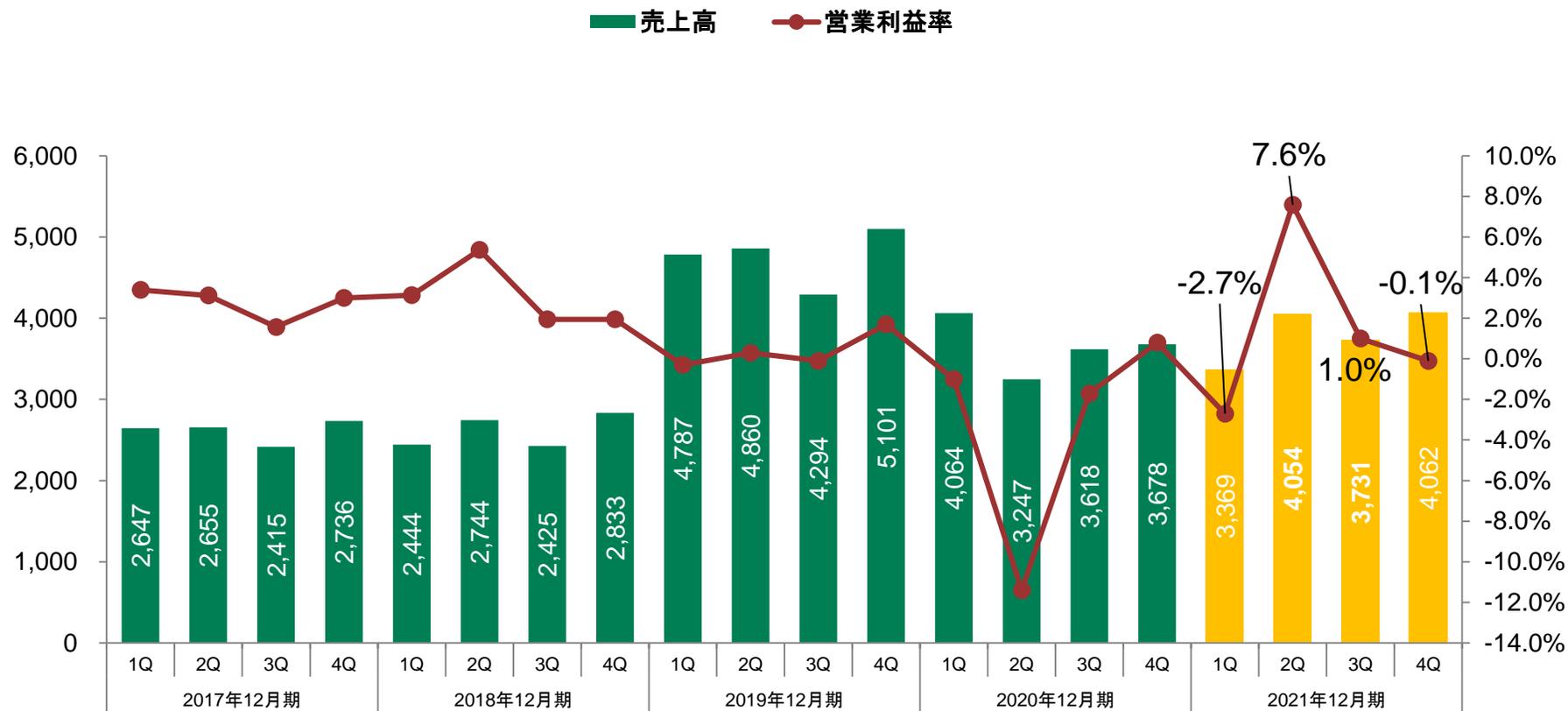
	2020年12月期 (2020年1月1日～12月31日)		2021年12月期 (2021年1月1日～12月31日)	
	(個別)	対売上高比	(個別)	対売上高比
売上高	5,819	100.0%	5,286	100.0%
営業損失(△)	△69	△1.2%	△75	△1.4%
経常損失(△)	△34	△0.6%	△70	△1.3%
当期純利益又は 当期純損失(△)	△515	△8.9%	130	2.5%

主力の業務用事業において新型コロナウイルス感染拡大による外食需要の低迷が収益に大きく影響したが、山梨工場の譲渡完了に伴う法人税等調整額の利益計上により、当期純利益は黒字化



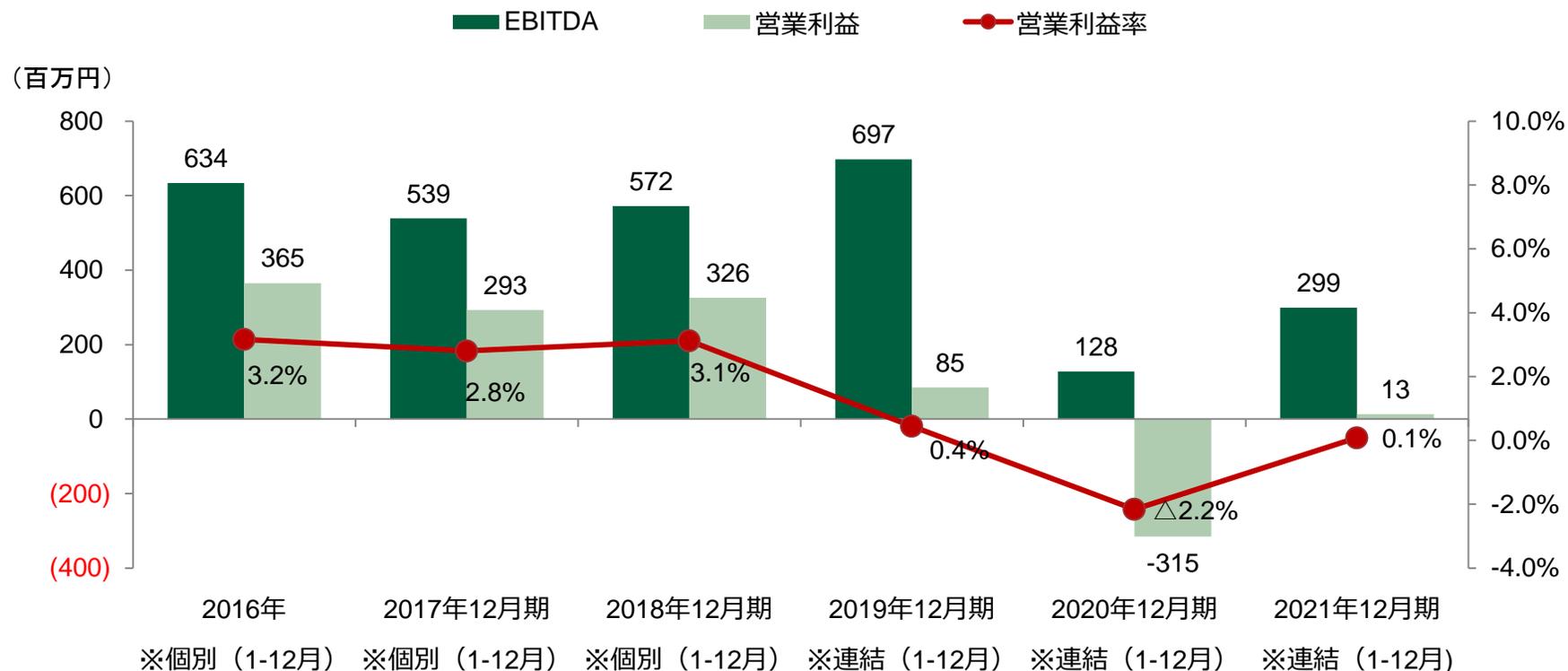
主な指標

四半期業績の推移



※1. 2019年12月期より連結決算となっております。

営業利益率、前年比2.3%p増加

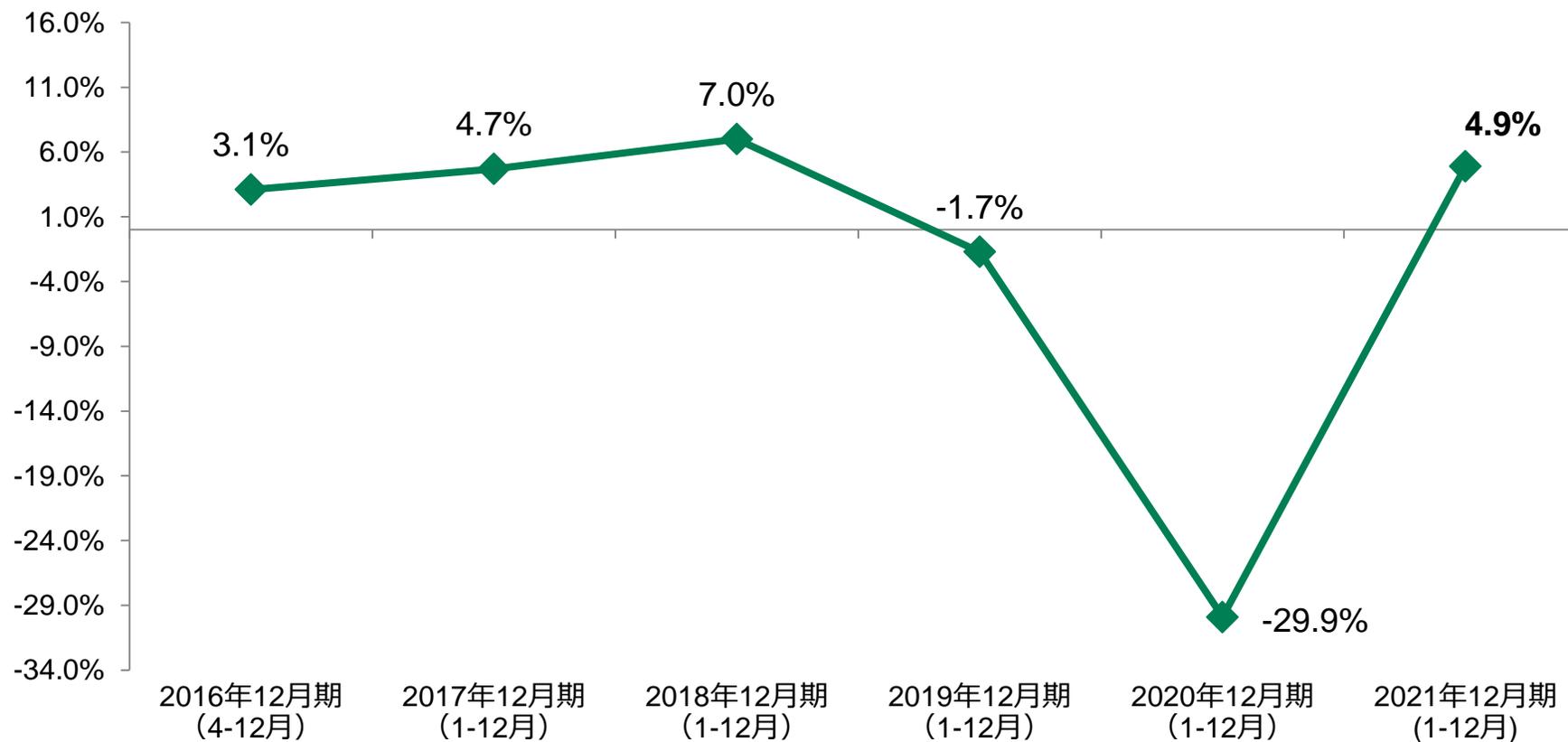


※ 2016年以前は、1-12月に補正した個別決算の数値となります。
 ※ 2019年12月期より連結財務諸表を作成しております。



ROEの推移

前年同期比34.8% p 増加



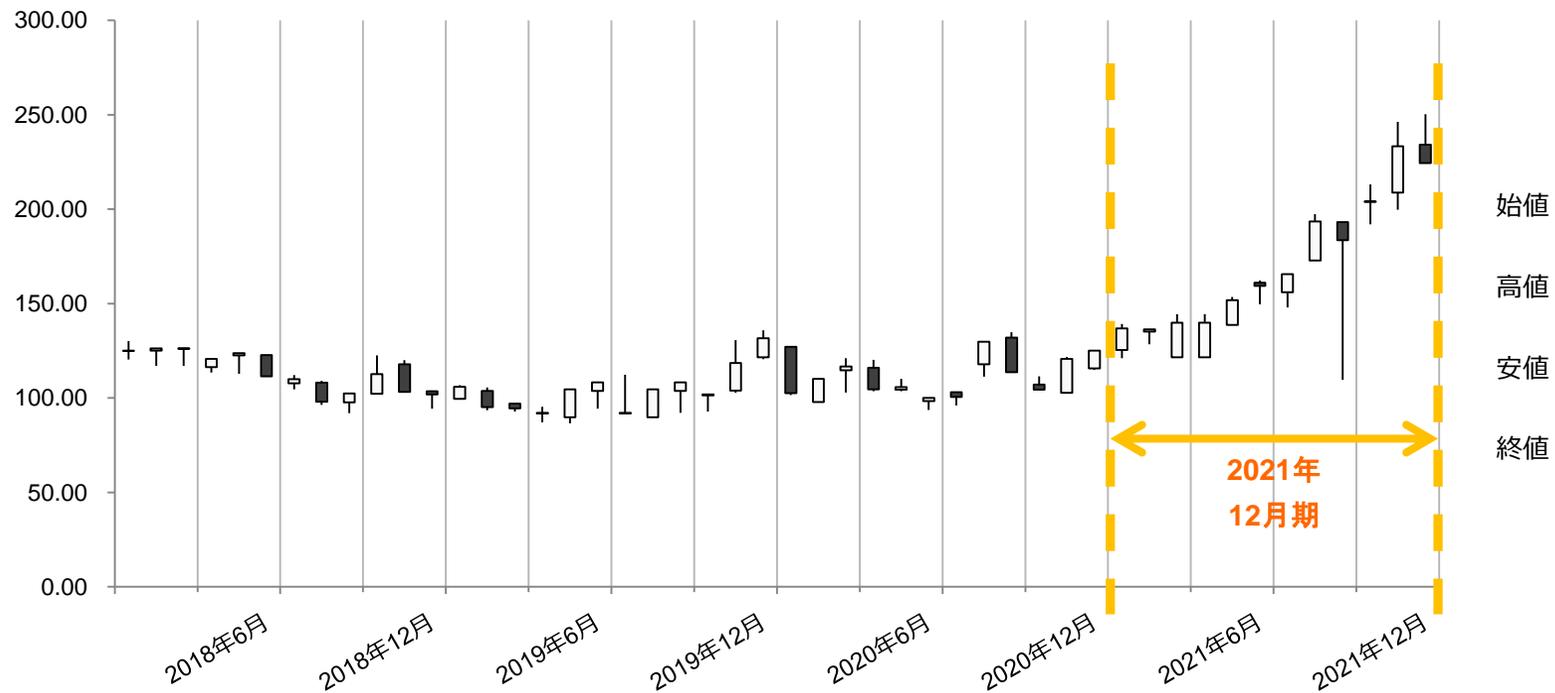


コーヒー相場

相場水準は高騰しており、
先行きは不透明な状況

NYコーヒー相場

(¢/ポンド)

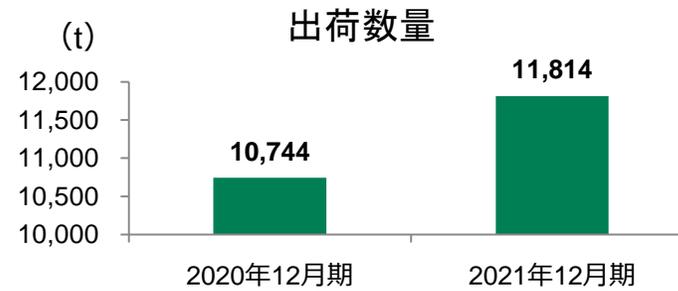
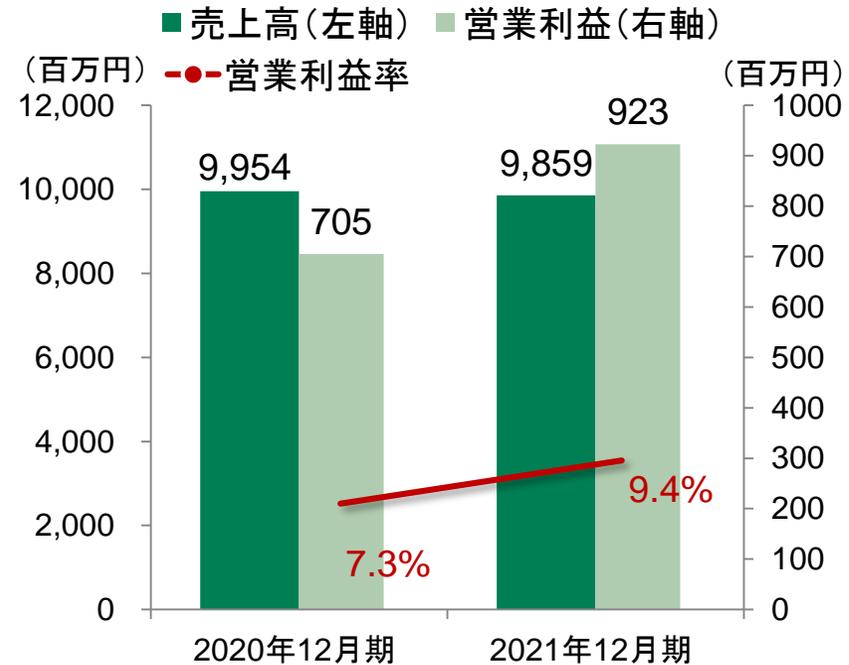




2021年度の業績 ～チャンネル別～

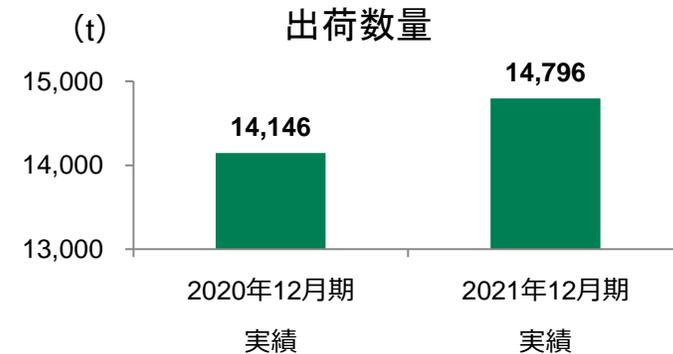
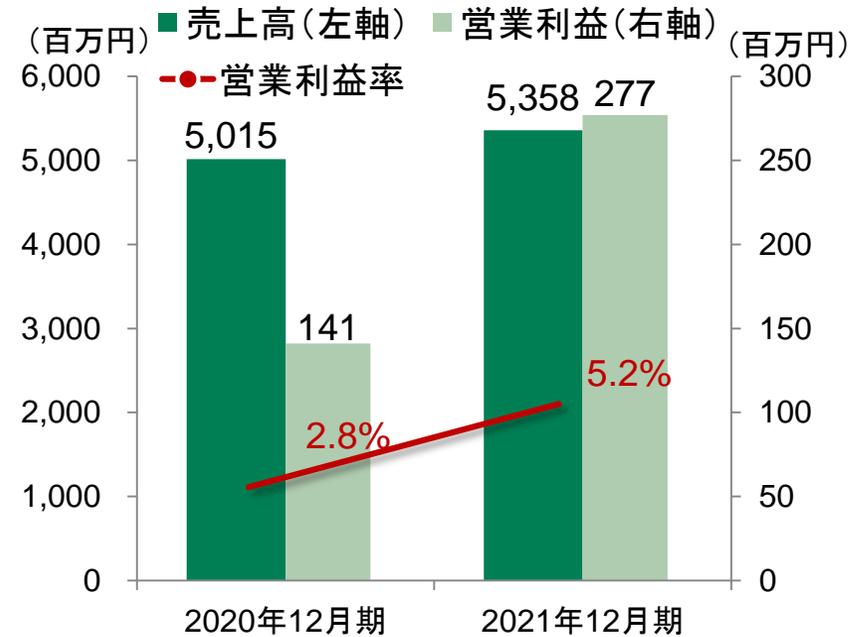
チャネル別の業績(業務用)

外出自粛や飲食店に対する営業時間短縮要請による制限が生じ、厳しい状況が続いたが、テイクアウト、物販等の需要拡大を見据えた一杯抽出製品等の企画や営業提案に一定程度の成果があり、前年を上回る



チャネル別の業績(工業用)

- ☛ オフィス街における自動販売機およびコンビニエンスストアでの販売回復は遅れているものの、量販店での販売は堅調に推移したことから、前年の緊急事態宣言による外出自粛等による販売減少からは回復基調であり、前年を上回る



ユニカフェが考える Beyond CORONAの世界

レジリエントカンパニーになるためのマイルストーン

2020年

With CORONA

緊急事態対応

- ✓コスト削減
- ✓投資見直し
- ✓手元流動性の確保

2021年

完了

構造改革の推進

- ✓アートコーヒーPMIの加速
 - ・営業は多様性を推進
 - ・生産、非営業体制の再編
- ✓カップスの関連会社化

2022年

Beyond CORONA

レジリエントプランにおける成長ドライバー

- ✓SSMS(※注)への設備投資
- ✓業務用事業におけるプレゼンス向上
- ✓工場再編によるコスト優位性

現在の
フェーズ

(※注) SSMS…

Single Serve Manufacturing System
当社の造語 一杯抽出型製造システム

2022年12月期業績予想について

2022年12月期通期連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染の再拡大に伴い、適正かつ合理的な算定が困難であることから2022年12月期の業績予想を未定とさせていただきます。
今後、動向を見極めながら、業績予想の算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。



ユニカフエが考える サステナビリティ

ユニカフェが考えるサステナビリティ

私共は、自社の利益を追求するだけでなく、企業理念である「コーヒーをコアに人と環境に優しい企業」であるべく、私共の活動が社会に対して影響を与えることに責任を持ち、『誰も取り残されない』世界の実現に貢献し続けたいと考えております。

その為には、SDGsへの取り組みは欠かせません。

私共は、SDGsの取り組みをより加速度的に推進すべく、各部門からメンバーを選任し、サステナビリティ委員会を発足いたしました。

企業理念の体現を通じて、社会的責任を果たすべく、全従業員が一丸となって取り組んでおります。

コーヒーは日本から遠く離れた生産国で栽培され、長い旅路を経てお客様に届きます。私どもユニカフェは旅路の中で託された様々な想いを胸に、焙煎機へと火を入れます。

“Think Globally As a Roastery”

このスローガンの下、従業員一人ひとりが主体性を持ってサステナブルな活動に取り組み、生産国からお取引先様までに関わる全ての「人」と「環境」を大切にすることで、企業理念である「コーヒーをコアに人と環境に優しい企業」を目指します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



現在の活動～従業員～

高齢者の就業機会創出

ユニカフェは、超高齢社会の到来や高齢者の働きたいというニーズを解決するため、神奈川総合工場が位置する神奈川県愛川町の公益社団法人愛川シルバー人材センターを通じて高年齢者への就業を依頼し、2019年よりご活躍いただいております。また、定年後の人材を再雇用し、技術、知識の継承による事業基盤の強化にもつながっております。

教育・研修制度の充実

「人材育成」は経営にとって最重要テーマの一つであり、従業員の活躍・成長を促す為、等級・職位別研修体系図を定めております。

具体的には、次世代の人材育成の為に選抜型の教育・研修、自社資格である「ユニカフェコーヒーマイスター」取得支援、神奈川総合工場では、安全意識向上の為、安全パトロール、危機体感教育等、安全教育を実施しております。

人権・社員の健康の確保

ユニカフェは、企業理念において「人」に優しいを基本とし、顧客・株主・従業員など、すべてのステークホルダーを大切にすることを宣言しています。

まず、ユニカフェ社員としての人権への正しい理解と浸透の為に、ハラスメント講習等、人権に関する教育を実施しております。

また、法令に基づくストレスチェックの実施や、定期健診受診の徹底に加え、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメント等の人権に関する相談や、労使からの労働時間に関する個別の苦情、意見及び要望等、社員の健康に関する相談窓口を設置し、従業員一人ひとりが安心して働ける環境づくりを推進しています。

現在の活動～生産国支援～

東ティモールとのパートナーシップ

ユニカフェは産地でのコーヒー栽培、精選、調達、焙煎、包装、物流の一連のコーヒー製造プロセスを担うプロフェッショナル集団です。お客様のPB、OEM製品の品質実現に留まらず、お客様と共に社会的責任やサステナブルな事業活動を果たすべく、その第一弾として「東ティモールでの取り組み」をスタートさせました。今後も取組産地とお客様とを繋げ、サステナブルな調達の拡大を目指します。

取組みの内容

東ティモールのコーヒーはインドネシア経由で原生伝来し独立をめぐる約30年間の紛争で手つかずになったあとも、原種が自生して残っており、肥沃な大地では高品質のアラビカ種が栽培されています。良質なコーヒーが収穫されるにも関わらず、精選～輸出までの間にその鮮度が損なわれてしまうことが課題の一つに挙げられることから、各農家でチェリーとして収穫されたコーヒーチェリーの、外皮と果肉を除去し、種子の状態にする作業を行うため精選機械（ウェットミル）を提供し、精選能力の向上と品質維持に貢献できるよう取り組みました。また、日本国内では流通量の少ない東ティモールのコーヒーを調達し、知名度の向上と消費拡大を推進しております。



ユニカフェが考えるサステナビリティ～原料・省エネ～

認証原料の取扱い

ユニカフェはサプライチェーンの製造という立場から、サステナブルなコーヒー事業を実現すべくコーヒー原料の各認証を取得し、認証コーヒー製品を製造する態勢を整えています。私どもは認証コーヒーの使用を推奨しております。

省エネルギー活動

地球温暖化は、コーヒー生産に対しても悪影響を及ぼす環境問題です。コーヒーの木は温暖な気候を好む植物ですが、極度の高温には弱いため、地球温暖化によって栽培適地が減少し、収穫量や品質が損なわれることが予測されています。コーヒー産業と文化を維持していくためには、地球温暖化への具体的な対策が不可欠です。私たちは、2025年度のScope1,2*1のCO2排出量を2019年度実績値より46%削減することを目標に、CO2排出量削減に取り組んでいます。

工場内照明のLED化

神奈川総合工場では、LED照明を使用しています。LED照明は、白熱電球や蛍光灯に比べて消費電力が小さく、工場稼働時のCO2排出量を削減することができます。

*1：サプライチェーン排出量（事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量）のうち、事業者による排出量のこと。



ユニカフェが考えるサステナビリティ～廃棄物～

廃棄物

廃棄コーヒーの再利用

レギュラーコーヒーの製造工程では、コーヒー豆由来の副産物・廃棄物として、豆の表面から剥がれた薄皮や、品質検査・清掃のため販売に適さなくなった豆・粉（以下「コーヒーかす」）が生じます。私たちは、これらのコーヒーかすを産業廃棄物として処分するのではなく、磯沼ミルクファーム様が推奨する循環型農業に有効活用していただいています。

磯沼ミルクファーム様では、乾いて清潔な場所を好む牛のために牛の寝床にコーヒーかすを撒き、牧場の臭いをコーヒーかすの香りや消臭効果によって和らげています。さらに、牛糞にコーヒーかすを混合・発酵して作られた「完熟コーヒー牛糞堆肥牛之助」は地域の農家の方を中心に利用されており、本来廃棄されるコーヒーかすが別の農作物を育てる土に還るという循環ができています。



磯沼ミルクファーム



コーヒーを撒いた牛の寝床



完熟コーヒー牛糞堆肥「牛之助」

麻袋の再利用

コーヒー生豆の輸送・保管に用いられる「麻袋」の再利用に取り組んでいます。神奈川総合工場では、製造工手の始めに麻袋を裁断し、中の生豆だけを製造ラインに投入します。空になった麻袋は、再生原料化したり、果樹園の敷材等の用途で農業に活用したりして、廃棄物削減に努めています。

生産国への苗木寄贈プロジェクト

生産国支援の活動の一つとして、お客様と共に社会的責任やサステナブルな事業活動を果たすべく、コーヒー生産国の生産者へ苗木寄贈するプロジェクトをスタートさせます。

コーヒーの木は病気や老化により収穫量が低下するため、安定的な生産には定期的な植え替えが必要です。また、現在、価格変動気候変動がコーヒーの栽培業の持続可能性を脅かしています。ユニカフェは、コーヒーの安定した生産に貢献すべく、生産者へ苗木の寄贈を行ってまいります。寄贈する苗木は気候変動に耐性のある品種を選択することで、2050年問題*1への取り組みにも繋げてまいります。

*1：コーヒーの2050年問題

温暖化による気候変動により現在のコーヒー栽培地が減少してしまうことであり、このまま気候変動が進むと、2050年にはアラビカ種のコーヒー栽培適地は、50%にまで減少すると言われている。また、コーヒー生産大国として有名なブラジル国内の栽培適地は、60%も減少してしまう恐れがある。

第1弾 2022年4月実施予定
産地：ベトナム / Gia Lai地域

今後、取組む生産国を広げてまいります。

今後の取り組みについては
ユニカフェ ホームページにて詳細を
公開してまいりますので乞うご期待ください。
<http://www.unicafe.com>



Disclaimer : 本資料に関するご注意

免責事項

本資料に記載の内容は、過去及び現在の事実に関するものを除き、当社が現時点で入手可能な情報及び仮説に基づいて判断されたものであり、当該仮説や判断に含まれる不確定要素や、将来の経済環境の変化等により影響を受ける可能性があり、結果として当社の将来の業績と異なる可能性があります。

なお、本資料における将来情報に関する記述は上記のとおり本資料の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本資料に記載されている当社以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

インサイダー取引に関するご注意

企業から直接、未公開の重要事実の伝達を受けた投資家(第一次情報受領者)は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています(金融商品取引法166条)。

同法施行令第30条等の定めにより、二つ以上の報道機関に対して企業が当該情報を公開してから12時間が経過した時点、または金融証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法(TDnetの適時開示情報閲覧サービスおよびEDINET公開WEBサイト)により掲載された時点を以って「公表」されたものとみなされます。